

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0772200176		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームありあ1階		
所在地	福島県岩瀬郡鏡石町不時沼52		
自己評価作成日	平成23年8月24日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 福島県シルバーサービス振興会		
所在地	福島市中町4番20号 みんなうビル3F302号室		
訪問調査日	平成23年10月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

鏡石町より指定を頂き運営を行っておりますが、他市町村よりも指定を頂き入居されている方もいらっしゃいます。行政から顔がみえる事業所であるように行政の担当者の方と密に連絡をとり、連携を図っています。  
開所から8年経過し入居されているかたも介護度が高くなっていますが、介護度が高くなっても個人の尊厳を大切にしたいケアが提供できるように努めています。又、医療関係者との連携にも力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- 1、事業所内・外での研修機会が多く、各々の職員が積極的に自己研鑽に努め、得られた知識をサービスの提供に活かしている。
- 2、地域に根差した運営が住民に理解され、様々な協力が得られる体制になっている。先の大震災では、地域の住民・消防団が逸早く駆け付け、利用者の安否と事業所の安全確認がなされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を作成、理念の共有化を行うため、唱和をして実践につなげている。	今年度に入り、利用者の状況などを考慮し再検討し、職員の総意で作直した「笑顔、心を大切に、寄り添い穏やかに暮らせるケアを提供する」との理念の実践に努めている。	地域密着型サービスの意義と役割を反映させた内容を現行理念に付加する等されてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板などにより、情報を共有、地域の清掃、祭り、運動会などに参加、気軽に行ける交流の場がある。	全町民参加の運動会、年4回行なわれる地域の清掃、夏・秋祭りなどに参加し地域との交流を図っている。また、地域住民に呼び掛けたAEDの講習会なども行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方の相談、行政側からの相談、中学生の職場体験の受け入れ等から、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に行い、ホームの取り組みについて意見や助言をもらいサービスの向上につなげている。	会議は定期的に行われている。事業所からは、利用者の状況や事故の報告、行事などの取組内容が報告され、委員からは地域の催しなどの情報が提供されている。意見交換内容は運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当職員、包括支援センターなどにもむき相談や指導を頂きながらケアに取り組んでいる。	生活保護に関わる相談や介護保険の手続きや更新時などの他、毎回の運営推進会議の出席時等に町担当者と連携を取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルにそって職員に理解してもらいケアを提供している。	職員は内外の研修等で身体拘束を行わないケアを学び身に付けており、見守り・寄り添いで日常ケアを行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルにそって虐待にあたる行為がないか確認をしながら介護サービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されてる入居者様はいないが、研修などで制度について、理解を深め見識を広めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約または改定等の場合は家族等にその都度説明を行い同意を得て理解や納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の要望を聞いたり、ご意見箱を設置したりしている。それらのご意見を運営推進会議に取り上げホーム運営に反映している。	利用者の意見は、毎日の触れ合いの中から、家族の意見は面会時や運営推進会議への出席時に積極的に聞き出せる様に働き掛けている。出された意見・要望は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議を開き、意見の取り入れ悩み等を聞き一緒に解決出来るようにしている。	利用者の席順や入浴の声掛け、不穩時の寄り添い方等、利用者のニーズを把握した職員の意見は様々なケアや運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、訪問または報告を受け、具体的な実績・勤務状況等を把握し、職員処遇へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での独自の勉強会、法人主催研修、外部研修等に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム連絡協議会主催としている研修等をうけている。技術や知識を身に着けると共に交流する機会もつくりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様からの情報を頂いたり、本人に受け入れられる様な関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し要望等に耳を傾けどのような対応が出来るか話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、必要としている支援、の話し合いを繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との暮らしの中で家族のように共に支え合う関係作りに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等、ご家族様の参加の声掛けをしている。ご家族と協働してケアにつなげるような関係作りをみつけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活習慣を把握し、出来る限り馴染みの関係が途切れないように、支援している。	利用者や家族から馴染みの人や場所を聞き把握に努め、それらの関係が継続できる様に支援している。友人の訪問、理美容院、スーパーでの買い物などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共有スペースにて過ごして頂けるように入居者様に声掛けお互いの関わりが持ちやすい環境作りに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはホームでの生活状況を細かく話伝え、家族からの相談事などには快く応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに添えるよう努めている。	自宅や家族への思い、食べ物や散歩、入浴の希望など、日々の生活の中での言動や表情などを通して、利用者の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より以前の生活歴を伺いサービス利用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、毎日の健康状態の把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様から思い、意見、要望など聞き取りケース会議等で活かし介護計画に反映されている。	利用者・家族の意向、医師の診察所見などを下に職員間で心身の状況を分析・評価し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	居室担当、ケース会議、カンファレンスなどで話し合い、出来るだけ細かく個別の記録が出来るようにつとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況に応じて個々のニーズに合わせた支援を行えるようつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、近所の方、体験学習などの受け入れの実施をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、ご家族様との連携を保ちながら適切な医療を受けられるよう支援している。	受診には家族が同行しているが、医師に日常の様子を詳しく伝える必要がある場合は職員も同行している。また、2週間に1回開業医の往診が行われている。受診情報は双方報告を行い、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の訪問があり入居者様の健康状態を伝えると共に専門的なアドバイスを受け連携しながら健康支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時は病院と連絡を取り合いホームから出向き、ご家族様、病院、ホームとで連携しながら情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に事前に確認書を頂き医師、看護師、ご家族、職員などの連携に努めている。	入居時に、事業所の「重度化した場合の看取り指針」を説明し意向を確認している。必要に応じて「看取り」同意書で確認を行う。現在看取りの実績はないが、かかる事態の備えのための研修等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し周知徹底を行っている。救急救命法の講習をうけ実践力を身に着けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し定期的に避難訓練を行い入居者様の状態を踏まえ避難誘導が出来るようにしている。非常時の備蓄品も準備されている。	総合避難訓練は年2回(内1回は消防署立会い)行われている。その他毎月、通報・防火設備点検・伝言・連絡網確認等の部分訓練を実施している。しかし近隣からの協力は得られていない。	避難訓練等への住民の参加を運営推進会議の委員の協力を得るなどで、早い時期に実現するよう積極的に働き掛けをして欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけそばに寄り添い声掛けをし、傷つけないよう言葉を選び対応をしている。	人生の先輩である利用者の人格や誇りやプライバシーを害する事が無い様に職員は日常のケアに努めている。その対応も画一的ではなく、利用者の個性等を考慮した援助となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで自己決定出来る場面を作り本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外の空気をすいたい、散歩がしたいなど希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で利用されていた鏡台など持って来て頂き支援している。定期的に理髪店に行ける様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	春夏秋冬の材料を楽しめるよう声をかけ調理をして笑顔が出る食事、楽しいものになるよう支援を行っている。	献立、食材は法人が運営するセンターから届けられるが、利用者の好みで別メニューも取り入れられている。「笑顔が見られる食生活」をスローガンにしており、職員、利用者が会話を楽しみながら同じテーブルを囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の身体状況に応じてキザミ、ミキサー、常軟食に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけにて口腔ケアを行っており、入居者様の習慣となっている。出来ない方については職員が義歯洗浄を行い。口腔内を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを活かしたトイレ誘導で、日中は布パンツで過ごせる様に改善された利用者もあり、自立に向けた支援が行われている。生活表で排泄の確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認、水分、食事の摂取状況の確認運動など取り入れ、主治医のアドバイスも得ながら予防対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様のその日の希望を確認しその人に合った入浴支援を実施している。	利用者の希望で2日に1回の入浴を楽しんでいる利用者もいるが、平均週2回の入浴となっている。入浴を好まない利用者には散歩やおしゃべりでタイミングを見ながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう声掛け、不安時は話を傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム内での勉強会など開いている。副作用、効能など一人ひとりが何を服用しているか把握をし体調の変化にも気配りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせて会話をする。歌、音楽、散歩、掃除、など自分からの参加があり一人一人の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩、外出など実施している。近所に回覧板を届けたり、草むしりを行ったりしている。	特に今年は原発事故などで例年より少なくなっているが、事業所の周囲を散歩したり、近くのスーパーへ買い物に出掛けたりしている。また、利用者の誕生日にはレストランへ出掛け会食を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や家族の意向、本人の希望によりお金を使用出来るようにしている。一諸に出かけ、欲しいものを自分で見て頂き購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂くため、住環境や提示を工夫し、居心地良く過ごせるようにしている。	共用空間は広く明るく清潔である。壁面には行事の写真や手作りのカット絵等が飾られている。利用者はそれぞれ好きなソファやテーブルでゆったりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室、食堂好む所で自由に過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	思い出のある物を持ち込み居心地良く環境整備の配慮をしている。	居室は、トイレ・エアコン・クローゼットが設置され、ベットが好みに配置されている。入り口には利用者の名前の入った好みの絵柄の布地が張られている。室内は鏡台や写真などが持ち込まれ、各々が自分らしい生活を営んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事等入居者様に声掛け安全に、自立への配慮をしている。		